

## 平成30年度 第8回医療系フォーラム実験小委員会 議事概要

- I. 日 時: 平成31年3月28日(木) 14:00~16:00  
II. 場 所: 公益社団法人 私立大学情報教育協会  
II. 出席者: 片岡主査、神原委員、高松委員、山元委員、中山委員、原島委員、二瓶委員(G)  
事務局: 井端事務局長、森下 ※(G)は Glexa での参加

### III. 資料

平成30年度 ICT 活用による分野横断型授業総括

- ① ICT 活用による分野横断型授業(学生用ガイド)
- ② ICT 活用による分野横断型授業ルーブリック評価
- ③ ICT 活用による分野横断型授業の業務フロー
- ④ 第28回日本健康教育学会学術大会(東京)

平成30年度第7回委員会議事概要

追加資料 「グループグループプロダクト2」、「グループグループプロダクト4」

### IV. 議事概要

#### 1. 平成30年度 ICT 活用による分野横断型授業総括について

第7回委員会で検討した内容を踏まえて取りまとめた資料「平成30年度 ICT 活用による分野横断型授業総括」に基づいて以下の課題と改善点の検討と総括が行われた。

全体の総括として、初めての試みであり、反省点や課題も多いが、グループプロダクト、ルーブリック評価などから見て、参加学生は「将来が予測できない時代に社会の課題を解決していくための多様性の理解と将来展望、コミュニケーション・情報リテラシーなど幅広い能力、生涯継続性などについて、コンピテンシーはできたと考えられる。

反面、本授業の最大の目的であった「議論をさせ、そこから新しい知を自分たちで気づき、皆で作っていきこうと議論させることの目標は十分に達成できなかった」、「知識の貼り付けでなく自分たちで考え、その中で将来像を描き将来に対する提言を考えさせる」、「そのために「ファシリテーターや専門家が適宜コメントを入れて示唆するなどは十分にできず」、そういった仕組みをしっかりと作っていないといけなことが反省点と今後の課題として議論された。

#### 2. 平成30年度 ICT 活用による分野横断型授業を総括しての課題

##### (1) 授業の流れについて

- ・ 健康長寿を阻害する要因について、NHKスペシャル「あなたもなれる“健康長寿”徹底解明100歳の世界」で学び、その知識を活かして、20年後自職種がどのように活躍するか、また多職種とどのように連携するか自由に考えるという授業の基本的な構造を学生に理解させることができなかった。20年後に関しては必ずしもエビデンスがないので、自由な発想で考えて欲しかったが、その部分を考えさせる仕組みが不十分であった。

##### (2) ファシリテーターの養成について

- ・ 今回の経験を活かしてファシリテーターガイドの充実を図る必要があり、実際のネット授業の動画も加えたファシリテーター養成ビデオの作成が必要である。

##### (3) 事前準備について

- ① 参加学生には、事前に Glexa の使い方に習熟させる必要がある。
- ② 「学生の登録」、「グループ分け」、「ファシリテーターと学生の日程調整などは事務局で行うことや「個別面談」は Version2 に依頼する等を検討する必要がある。
- ③ プロブレムマップの作成法については、事前に Glexa でできるようにしておく。

##### (4) オリエンテーションについて

- ・ 30分以内で授業の目的と流れを伝えるようにする。

- ・ネット授業2以降に関連する内容についてはファシリテーターがその都度説明するようにする。

#### (5) ネット授業について

- ・ 平均的(標準的)自己学修時間を設定する。
- ・ 授業の最後に次回までの自己主導型学修内容と次回のネット授業の内容について、ファシリテーターが説明を行う。
- ・ ネット授業前に学生とは他の学生のプロダクトに目を通すようにする。
- ・ ファシリテーターも学生の提出物(プロダクト)に事前に目を通し、学生のディスカッションをどのようにまとめるかシミュレーションを行う。
- ・ 健康長寿を阻害する要因については、NHKスペシャル「あなたもなれる“健康長寿”徹底解明 100歳の世界」やエビデンスのある資料に基づいて学修するが、20年後の自職種の未来像については、エビデンスのある資料がないので、自由な発想で各自が考えてもらいたい。その際の参考資料として「NHKスペシャル AIに聞いてみた どうすんのよ!? 日本健康長寿」を視聴させる。

#### (6) 学生用ガイドについて(資料②)

- ・ 時間進行が分かりやすいように、終了時間の目安を入れる。
- ・ 司会・書記など学生があらかじめ学生用ガイドに目を通すように指導する。
- ・ 議論の深さなどもどの程度まで求めているか分かりやすくする。
- ・ 最後に各グループでファシリテーターの指示の下、学生がふり返しを行う。
- ・ ネット授業4(説明会)の前に学生だけで説明会の準備を行うための話し合いの機会をとって、ネット上の会議室を作る。
- ・ 質問や賛成(同意)カードを作る。

#### (7) 評価について(資料②)

- ① ルーブリック評価結果
- ② グループプロダクトについて
- ③ ネット授業後の意識の変化について

#### (8) その他

- ① 役割分担
  - ・ 学生登録、グループ分け、日程調整などは Ver2と連携して事務局に担当していただく。  
→運用マニュアルを作成する。(資料③業務フロー)
  - ファシリテーターガイドを充実させる。
- ② 専門家の意見の反映
  - ・ プロダクトについては、ファシリテーターがコメントを入れて指導すること、専門家の意見を集約して、ファシリテーターが学生に伝え、示唆し考えさせることが必要である。
  - ・ 今回はこれができなかったことが大きな反省点である。

### 3. 学生用ガイドについて(資料②)

第7回委員会で検討した改善点を踏まえて修正した学生用ガイドについて(資料②)で説明が行われた。

#### 改善点

- ・ 時間進行が分かりやすいように、終了時間の目安を入れる。
- ・ 司会などがあらかじめ学生用ガイドに目を通すように指導する。
- ・ 議論の深さなどもどの程度まで求めているか分かりやすくする。

### 4. ICT活用による分野横断型授業の業務フローについて

今回の実験授業を踏まえて整理した実施手順、業務の流れについて二瓶委員から資料③で説明が行われた。

※ 今回は募集とチュートリアルがばらばらで参加学生が決まる都度、個別の日程調整を行いチュートリアルを行ったため調整と手間が大変であった。参加学生が確定し学生名簿完成後に日程調整してからチュートリアルに入ることが負担なく円滑に進めるために重要である。

#### 5. 参加学生間、ファシリテーターとの連絡や調整を円滑にするツールについて

簡単に連絡を取り合える手段としてスマホでも使える LINE のグループなどを設定する必要がある。PC ではスムーズなコミュニケーションは難しい。

#### 6. 第 28 回日本健康教育学会学術大会(東京)の演題登録について

資料④「第 28 回日本健康教育学会学術大会(東京)」に基づき今回の実験遊行を報告することについて、話し合わせ、共同発表者登録、発表のための平成 31 年度学会入会について、本日参加の委員全員の賛同が得られた。なを本日欠席の 2 名の委員については、メールで確認することにした。

#### 7. プロブレムマップとグループの成果物について

追加資料として配布の「グループグループプロダクト2」、「グループグループプロダクト4」を見ると視聴した NHK ビデオ「あなたもなれ“健康長寿”徹底解明 100 歳の世界」に引きずられ、基本的な「睡眠」、「バランスととれた食事」、「適切な運動」などが考えられず、いきなり「オメガ3脂肪酸」などの表現が出てくることに違和感があることが指摘され、日常生活をもとにもっと基本的なことを考えさせるべきであるとの意見があった

学生にこのようなビデオで広く社会の動向を理解させ、俯瞰させるためにこのような映像の視聴は必要だが、臨機応変に適切なコメントなどを入れて学生を導くこと。ファシリテータ、専門家がそのための示唆を行うことが欠けていた。また、学生間で十分に議論させる時間が取れていなかったことが最大の反省点であり、今後改善していく必要を確認した。

#### 8. テーマについて

- ・ テーマが大きすぎたという反省もある。
- ・ 狭い範囲の議論でまとまるのを避け、大きな視点で考えさせたいことからテーマを設定したことは良いが、テーマの導き方、に課題があったと思う。
- ・ ビデオを視聴して考えさせるのではだめ。ビデオを視聴させた上で何を考えさせるのか。社会の課題やテーマを与えることが必要。次回はこの点を改善したい。
- ・ あえて言えば多職種がどう絡むのかを考えることが大事である。
- ・ 健康長寿社会を実現するためにどうすべきなのかの視点、考え方は各先生でも個々に考えがあると思うので、「時代の要請に応じた医療の在り方について」実施する各先生のワークショップで考えて意識を合わせておく必要もある。
- ・ 今の医療のことしか考えられていない。
- ・ だれもがインターネットで簡単に医療情報を入手し、PC やスマホで健康管理のツールを利用できる時代になり、AI が医療分野にも進出する中で、変化する医療を考え、多職種と連携する、将来の医療を考え対応していく視点が必要になる。

#### 9. その他

- ・ 今回は学生の負担が大きすぎたことを反省し、時間的な余裕を持たせること、学生間で十分に議論させる時間が取れていなかったことを反省し、ネット会議室の貸し出し等学生が議論する場所を設けることなどが今後改善していくことが必要である。
- ・ テーマは学生に深く考えさせるテーマを設定し、ファシリテータ、専門家が臨機応変に適切なコメントなどを入れて学生を導くことが必要である。

- ・ 参加者のアンケート、振り返りシートなどから見てもコンピテンシーは良かったと思う。
- ・ 合格水準であったと思う。
- ・ 第一段階、第二段階とセットで2回やってみないといけない。
- ・ 医療系分野のAL 対話集会で本授業を報告した際、帝京平成大学の先生からからリハビリ分野も加えるべきとの申し入れがあったので時年度から入ってもらうようにしたい。
- ・ 年々ステップアップしていけばよいと思う。
- ・ 法律学分野でもネット上で複数大学の学生、専門家、社会人が話し合う授業を計画しているので、医療系で始めたこの授業をさらに発展させたい。
- ・ ネット会議室を貸し出し、学生が議論する場所を設けることは重要でぜひ考えたい。
- ・ 専門家の参加と専門家の意見については、これをやると学生は答えを待ちに入り考えないので、あくまで、をテーマについて学生に深く考えさせる。ファシリテータ、専門家はポイントポイントで適切なコメントを入れて学生を導くことに限定し深入りしないようにする。

## 10. 高学年を対象の第二段階について

以下の意見があった。

- ・ 栄養系 3年生後半(3月-4月)就活なのでこの期間は避けたい
- ・ 医学系 3年生でCBTなので4年生で大丈夫と思う。
- ・ 薬学系 3年生の12月-1月が試験なのでこの期間は避けたい
- ・ 2019年度で高学年を対象の第二段階について検討し2020年度に実施の場合、オリンピック期間を考慮する必要がある。
- ・ 高学年を対象の第二段階に向けて、委員を増やす必要があるなので、候補の先生を事務に推薦・紹介いただくことにした。

## 11. 次回の日程

新年度の日程が改めてメールでご都合をお伺いし決定することにした。